

希望をはぐくむメッセージ『大切なあなたたちへ』

文化の発信

さいたま市教育委員会委員
荻野 洋

私が文化の違いを初めて体験したのは、アメリカ留学の時だ。2歳になる子ども連れの留学だったので、親が交代で面倒をみる仕組みの保育所に子どもを預けていた。自分が当番となり、大勢の子どもたちを見ていて気付いたことがある。それはアメリカの子どもたちが最初に覚える言葉が「No」だということだ。遊び相手のおもちゃを取り上げようとするとき、「No」の一言で自分のものだという主張をし、また取り上げられる方も「No」と主張する。幼児の「No」というたくさんの叫び声でこの保育園は満ちていた。「It's mine (これ、自分のだ)」「Get out of here (自分の領域から出ていけ)」など、自己主張をまず覚える子どもの姿は、日本文化の優しさの中で育った自分にとって、世界との違いの大きさを思い知らされるものだった。

世界中の情報がインターネット等で瞬時に伝わる時代になり、日本とは異なる諸外国の価値観がすべてであるように感じる場面もある。しかし、昨年の3月の大震災で世界が称賛したように、日本人は「しなやかな心、慈しみの心」にあらわされる独特な耐久力、優しさなど優れた特性をもっていることを忘れてはいけない。

これからの世代の人々は、世界中の人々の様々な価値観と向き合いながら生きていくことになるだろう。その一方で、日本人のもっている「よき特性」を世界に発信するべき時期がきていると私は感じるのである。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会

いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にさせていただくようお願いいたします。